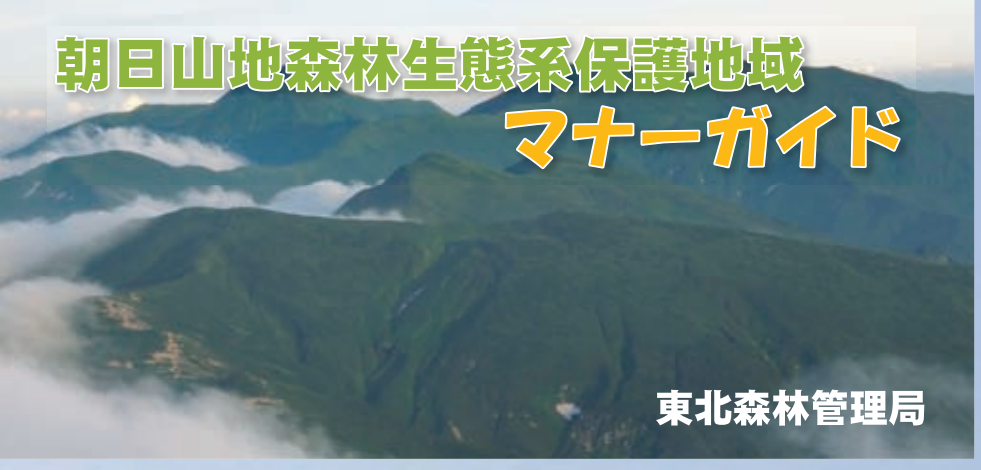
朝日山地森林生態系保護地域
マナーガイド



東北森林管理局

インフォメーション

朝日山地一帯の国有林は、我が国有数のブナを主体とする天然林からなり、野生動植物の種数・個体数ともに豊富で、生物遺伝資源、森林生態系としてきわめて重要です。このため東北森林管理局では、平成15年3月にこの重要な森林を森林生態系保護地域に設定し、永く後世に継承していくこととしました。

入林にあたっては、準備をしっかりし、無理せず安全な登山を心がけるとともに、野生動植物を大切にし、ゴミの持ち帰りに心がけてください。

連絡先

●朝日庄内森林生態系保全センター
山形県鶴岡市下名川落合３
TEL 0235-58-1730

●庄内森林管理署
山形県鶴岡市末広町 23-37
TEL 0235-22-3331

●山形森林管理署
山形県寒河江市元町 1-17-2
TEL 0237-86-3161

●置賜森林管理署
山形県西置賜郡小国町大字岩井沢 581-45
TEL 0238-62-2246

入林のマナー

●動植物を大切に

森林生態系保護地域内では動植物の採取は禁止されています。珍しい植物があっても見て楽しむか、写真に撮るだけにしましょう。

保存地区では決められた登山道以外への立ち入りは禁止されています。山道をはずれることは遭難の危険性があるばかりでなく、植物が踏み荒らされる原因ともなります。

●ゴミは持ち帰りましょう

ゴミはすべてお持ち帰りください。

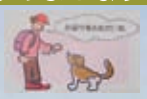
ポリ袋や発泡スチロールなどは永久に残留します。残飯類は野生動物の生態を撹乱し悪影響を与えますし、釣糸は水鳥の生存を脅かします。

●山火事防止

林内での歩きたばこやたき火は山火事の原因になります。喫煙やたき火は決められた場所でお願いします。

●ペットの持ち込みはやめましょう

犬などのペットは他の登山者の迷惑になるばかりでなく、野生動物に悪影響を与えたり高山植物を踏みつけたりします。



●テント設営は禁止されています

生態系の保護にご協力をお願いします。

●ストックにはプロテクターを

登山道や植物などへダメージを与えないよう、雪渓や岩場以外ではストックの石突きにキャップを装着するようお願いします。

●林道の交通安全

登山口までの道は、幅が狭くカーブの多い林道です。スピードの出しすぎ等にご注意ください。家に帰るまでが山行です。

森林生態系保護地域へのスノーモービルの乗り入れはご遠慮ください

森林生態系保護地域は、貴重な動植物をはじめ原生的な森林生態系が護られているところです。ここでのスノーモービルの走行はエンジンの騒音やトラックベルト等による樹木の損傷等により、生態系へ影響を及ぼすことがおおいに心配されます。

この地域へのスノーモービルの乗り入れは、ご遠慮下さるようお願いします。

登山の心得

●十分な装備

山の天気は急変するため、常に十分な装備を心がけましょう。

●登山計画はしっかりと

- 地図や山岳雑誌などで十分な情報を収集しましょう。
- 自分の体力・技術に見合った時間配分をしましょう。
- 登山カードや登山計画書を必ず提出しましょう。

●自己管理自己責任

- 登山は常に危険と背中合わせです。登山計画や安全対策は人任せにせず、自分の責任で行動しましょう。
- 天候や体調の変化を見極め、早めの判断が大切です。状況によっては、登山を断念したり、引き返す勇気も必要です。

朝日山地の森林生態系

●森林生態系とは

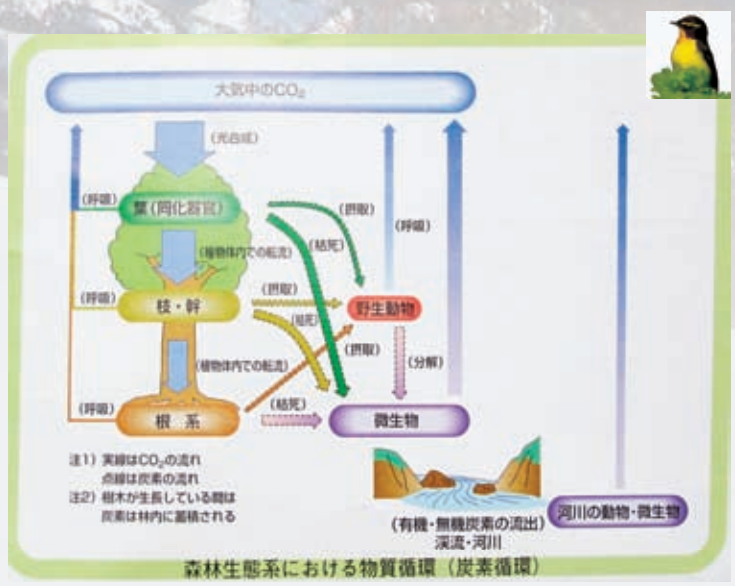
動物や植物などの生き物、あるいはそれを取りまいている環境（大気、水、土壌、光など）は、相互に物質とエネルギーのやり取りが行われ、お互いにつながりをもっています。これを「生態系」といいます。

森林は、樹木をはじめとしてさまざまな生き物たちが、生存競争や共生を行うなど互いに影響しあって成り立っており、生態系を代表するものです。

森林は太陽光の下で光合成によって大気中の二酸化炭素を取り入れ、さらに根から窒素やミネラルなどの養分を吸収して自らの樹体を作っています。これを草食動物が食べ、さらに肉食動物がこの草食動物を食べて生命の維持を図ります。このように「食べる一食べられる」という生き物どうしの関係を食物連鎖といいます。

動植物が死ぬと土壌微生物などによって分解され、炭素や窒素は気体となって再び大気に戻っていきます。このように森林生態系では種々の物質が生き物や環境の中を絶えず流れており、これを物質循環といいます。

野生動物の食物連鎖



森林生態系における物質循環（炭素循環）

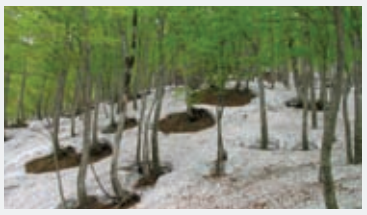
●朝日山地の森林植物

朝日山地は他に例をみない豪雪地帯であるために、なだれが多発し、また標高差が大きく、非対称地形を示すなど多様な地形環境を構成しています。

このため生育する植物も多種多様です。また、長い間ほとんど人手が加わらなかったために原生的な自然状態が維持されてきたことも大きな特徴となっています。

標高1,200m以下には、ブナを主体にミズナラ、イタヤカエデ、沢部を中心にトチノキ、サワグルミなどの高木の落葉広葉樹林が植生の主要を占め、下層にはハイイヌガヤ、ヒメアオキ、ハイイヌツゲ、エゾユズリハ、ヒメモチなど特に日本海側にみられる常緑伏状低木が生育しています。1,200m以上にはミネカエデ、ナナカマド、ミヤマナラなどの低木群落が優占し、さらに上部で北西季節風を直接受ける稜線にはハイマツが、風下側にはチシマザサ、ヤハズハンノキなどが生育し、いわゆる高山植物の宝庫となっています。

朝日山地は、標高差が大きく、雪崩が多発するために斜面が均一でないなどから、そこに生育する植物種は豊富でありきわめて多様度が高いといえます。



●朝日山地の野生動物

朝日山地は山地帯を代表するブナ等を主体とした落葉広葉樹が大面積に分布し、広大な森林生態系をかたちづくっています。このため野生動物の餌となる木の実や小動物のすみかとなる落葉落枝が豊富にあり、多種多様な動物の生息を可能としています。

ツキノワグマやカモシカ、あるいはイヌワシ、クマタカなどの生息地となっています。食物連鎖の上位に位置するこれらの大型哺乳類や猛禽類が数多く生息することからも、その餌となる小動物がきわめて多く生息していることが推測できます。

イヌワシ

クマタカ

ツキノワグマ

カモシカ